

様式第1号

会 議 録

会議の名称		平成30年度第4回つくば市未来構想等審議会		
開催日時		平成31年1月30日 開会14:00 閉会16:20		
開催場所		つくば市役所 5階庁議室		
事務局(担当課)		政策イノベーション部企画経営課		
出席者	委員	神谷大蔵、山本美和、大澤義明、永田恭介、吉富耕治、高谷榮司、市川一隆、桜井姚、小玉喜三郎、宇津野茂樹、大島慎子、森博徳、廣瀬久美子、中井聖、伊藤達也、坂本義治、中嶋信美、北本政行、永井悦子、中嶋修、西美佳、林亮、山口圭一、横田直巳、飯野哲雄、毛塚幹人、門脇厚司 計 27名		
	その他			
	事務局	大越企画経営課長、課員7名		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1名
議題		(1) 将来フレーム推計の実施状況について (2) 未来構想改定骨子(案)について (3) 未来像提案の為のプレゼンテーションについて		
会議次第	【第4回つくば市未来構想等審議会】 1 開会 2 報告 (1) 第3回審議会の開催報告 (2) 市民、中・高・大学生アンケート及び関係人口アンケートの実施結果報告 (3) 個別計画の分類と将来のリスク 3 議事 (1) 将来フレーム推計の実施状況について (2) 未来構想改定骨子(案)について (3) 未来像提案の為のプレゼンテーションについて 4 閉会			

審議内容

1 開式

事務局：只今より第4回つくば市未来構想等審議会を開会いたします。私は、つくば市政策イノベーション部企画経営課課長の大越と申します。どうぞ、よろしくお願ひいたします。本日は、ただいまの時点で27名の委員の方に御参加いただいております、会議開催要件の過半数を満たしていることを御報告いたします。始めに、市長の五十嵐より御挨拶申し上げます。

五十嵐市長：みなさまこんにちは。本日はお忙しいところ御参加いただきましてありがとうございます。今日はいよいよビジョンを発表するという非常に重要な機会だと思っております。もちろんその前に前提となるデータ等は事務局から説明をしますが、是非、委員の皆様方から忌憚のない御意見を頂き、若手は若手で一生懸命考えたものですが、それをどういう形で計画の中に反映していけるかというのを議論していきたいと思っておりますので、どうぞ、長時間になりますがよろしくお願ひします。私も今日は最後までいます。どうぞよろしくお願ひします。

事務局：ありがとうございました。ここで議題に入る前に、今回、2名の方の委員の交代がございました。ここで御紹介させていただきます。名簿順で御紹介させていただきます。御了承下さい。初めに、市議会議員といたしまして、つくば市議会副議長 山本美和様です。

山本委員：山本でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局：続きまして、地方行政機関及び公共的団体の役職員としまして、一般社団法人つくば観光コンベンション協会副会長であります市川一隆様です。

市川委員：つくば観光コンベンション協会副会長の市川でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局：お二人の方には委嘱状につきまして、時間の都合上お手元の方に配布させて頂いております。よろしくお願ひいたします。また、つくば市未来構想等審議会条例第5条によりまして、副会長は委員の互選によって定めるとされております。前回までは前副会長であります塩田前委員にお務め頂いております。事務局では12月定例会で新たに議長に就任されました神谷委員に副会長をお引き受け頂けないかと考えております。事務局の案につきまして、委員の皆様のお意見を伺いたいのですが、いかがでしょうか。

全員：異議なし。

事務局：ありがとうございました。それではここで新たに副会長をお引き受け頂く神谷委員に御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

神谷副会長：改めまして、みなさんこんにちは。昨年末の12月議会で塩田議長に引き続きまして第17代議長となりました神谷大蔵と申します。どうぞよろしくお願いいたしますを申し上げます。8月に発足しましたこの当審議会も今回で第4回目となりました。これまでつくば市の目指すべき将来像を市民アンケート等、市民意見の収集、統計等によるつくば市を取り巻く現状分析等について議論をし、いよいよ新たなつくば市の未来像が見える段階が近づいてまいりました。この重要な段階において、副会長の重責を担うこととなり、身の引き締まる思いであります。引き続き市民を代表する審議会の立場としまして、しっかりと意見を述べつつも座長をサポートし、委員の皆様と共に新たな未来構想を作り上げていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたしますを申し上げます。

事務局：ありがとうございました。それでは議事に入ります。ここからは当審議会の会長であります大澤会長に議長をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

大澤会長：みなさまこんにちは。今回は4回目の開催になります。本日は人口推計や財政見直し等の議論案件がありますが、先ほど市長の御挨拶もありましたが、若手による、今回長期ビジョンですから若手によるところが大事だと思います。本日はプレゼンテーションがあります。時間がかかなりタイトですので、議事進行に関しては御協力いただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

【議事（1）将来フレーム推計の実施状況について】

会長：それでは早速一番目、本日議題から入ります。「（1）将来フレーム推計の実施状況について」事務局から御説明をお願いします。

事務局：（資料1-1、1-2を用いて将来フレーム推計の実施状況について説明。）

会長：それでは御質問、御意見を頂きたいと思いますがいかがでしょうか。

委員：P67 の歳入と歳出の動向のうち、歳入は地方交付税交付金を含まない額ですか。

事務局：特別交付税が平成 29 年度で 26 億円となっておりますが、普通交付税は 0 円で、含まない状況です。

委員：平成 57 年度の段階で交付金を含めると赤字なのか黒字なのか教えて欲えていただけますか。

事務局：こちらは交付税の交付基準等が年によって、国の財政状況等によって変わったりしますので、正確に出すことが難しく、財政サイドと協議もしたのですが、そういう事情がありまして計算できる額だけで行ったという形になります。

委員：わかりました。ちなみに今年度、交付税、交付金はいくら位入っていますか。

事務局：今年度は不交付団体ですので 0 円という形になります。

委員：わかりました。

会長：他はよろしいでしょうか。いかがでしょうか。

委員：自分が聞き逃したのかもしれませんが、財政の計算の方法について、人口の増減は結構財政に関わると思うのですが、人口のパターンがいくつかある中で、歳出・歳入の計算はどのパターンを使っているのかが疑問に思いました。

事務局：失礼しました。こちらは人口推計のうちの 2 番の推計を用いています。

委員：ありがとうございます。

委員：教えていただきたいのですが、「P65 これまでの推移にみる今後の歳入・歳出の動向」ということで、これの平成 58 年ということを示していますが、歳出もそうですが、これについては今までの頁を見ますと、P63 なんかは 2017 年まで義務的経費とか扶助費が伸びているということ、そういった状況を勘案して推計したのか、又は人口の方の状況を勘案したのか、その辺はどうでしょうか。

事務局：今回、推計を行う際に人口によって変動するものと、人口によって影響がないものという形で、それぞれ項目毎に分けて、主に扶助費では人口に

連動する形で増減を行っております。ものによっては過去の平均等からそれが今後続いていくという形で推計を行ったものもございます。

会長：私も全てをチェックしていませんけど、昔と違ってわりときっちりやっていると思います。

市長：余計なことですけど、先ほど人口と歳入・歳出の話がありましたので、今は市で試算している部分においては、人口が増えると財政的にはプラスなのかマイナスなのかという論点が1つあると思います。今のところ考えると、人口が増えれば当然税収が増えます。ただ、行政需要としては、増収分以上にサービスを支払う方の額が大きくなりますので、いわゆる住民税だけを見たらこれは人口が増えるとやはり赤字にどんどんなっていくという方向性です。ただ、これが例えば企業なり、仕事の場なりというのが併せてできて人口増というのがなされるのであれば、必ずしもこのとおりではないところです。ただ、人口が増えるだけであれば財政は苦しくなっていく、極端に言えばベッドタウンになってたくさんの方がここに住んで、みんなが東京に通ったりするような街になっていけばいくほど財政としては苦しくなるということです。

【議事（2）未来構想改定骨子（案）について】

会長：それではよろしいでしょうか。よろしければ一旦議事を進めたいと思います。「議事（2）未来構想改定骨子（案）について」事務局から御説明をお願いします。

事務局：（資料2-1、2-2、2-3を用いて未来構想改定骨子（案）について説明。）

会長：2-1は報告書の章立て、2-2は現在の未来構想との比較、2-3はまちづくりの理念の改定について整理している内容になっています。御質問、御意見を頂きたいと思いますがいかがでしょうか。

委員：まず章立てのところですけども、第1章の目的や位置づけというのは、文章化されてみないとわからないところですけども、その辺りの検討はどういう風になるのか、そして最終的にはどこで話し合われるのかということです。私は意見交換の中で「市民自治」のまちづくりという観点で意見交換させて頂いたのですが、まちづくりの理念で4つの柱を立てており、その中には未来構想が行政だけの目的とか計画ではなくて、市民全体のものになるという意味では、やはり主語は市民だと思います。いろいろな多様な要望がありますが、

それをこの中でどう具現化していくかということだと思います。これだけ多くの公募で入ってきた市民委員が今回話し合いに加わっているのです、私はどこかに「市民自治」というような内容を入れて頂きたいと思っております。

会長：事務局お願いします。

事務局：まず P69 に対して頂いた御意見ですが、第 1 章につきましては今、現未来構想の今回改定という形で考えておりますので、今の未来構想の記載内容をベースにしまして、それを時点修正するような形で行いたいと考えております。内容につきましては、次回の審議会におきまして、素案という形で文章まで記載したものを御覧頂きたいと思っております。続きまして P75 のところで、市民が主役であるまちづくりという形で御意見を頂いたところにつきまして、今回 4 つの柱という形でお示しをしている中で、一番右側の共創都市という形で、この中で今回の記載内容では誰が主役という形では特に明記はしていませんけれども、共創しながら共に創っていく、市民、議会、地域団体、大学、研究機関、企業、そういった方々で一体となって創っていくという記載にしております。今、頂いた御意見等踏まえてこの記載につきましてはもう一度協議を行いたいと考えております。

委員：意見交換の時にも思ったのですが、行政側のお考えはやはり市民・協働、一緒にまちを創っていくパートナーとしての市民のあり様をお考えだと私も感じました。やはりこのまちをつくっていく時に、主体的に関わるのは市民であって、行政はその環境づくりとか、それを活かす進め方、そして決め方等を考えていくということになるかと思っておりますので、市民協働とは違うと思います。それでどこに入れたらいいのか非常に迷うところでもあるのですが、共創都市って私もそう思いました。今回、4 月から市民参加指針も推進指針も今実行されておりますが、そこでも市民自治を基調とする市政運営というような言葉が初めの言葉の中に入っておりますので、私は市民が我が事としてこのつくばのまちづくりを考えていくという風になれるような未来構想にしてもらいたいと思っておりますので、その辺りの表現、堅いのですが、みんなのものだということなどで考えていきたいと思っております。

政策イノベーション部長：御意見の観点は非常に重要だと思っております。今、共創都市ということは今御指摘のとおり、主役は市民になると思っております、そういった中でみんなでパートナーシップを持ちながらやっていこうということが、この共創という言葉には含まれています。ただその誰が主役かというそれがここではまだあまり明確にならないということなので、そういう意識が非常に重要だと今御指摘だと理解しておりますので、それはまた御意見を踏

まえまして考えていきたいと思います。

委員：資料2-2の関係ですが、まずP71からの社会情勢に関して、産業のことがあまり書かれていません。産業が変わってきていることは従来から申し上げているつもりですし、前回も同じような話があったがあったと認識していますが、いわゆる例えばものづくりにしても農業にしても、知識集約型産業、あるいは情報活用型産業になりつつあります。いわゆるイノベーションと叫んでいる高付加価値化が図れる時代になってきている。あるいはベンチャーの役割が非常に大事になっている、そういった世の中の変化があるわけですので、こういったことというのは、つくば市の強みを活かせる非常に重要な社会情勢の変化でありますし、また産業発展ですとか、人の集積ということをもたらすことによって税収増にも繋がる話だと思っています。非常に重要なファクターかなと思います。こういったものも踏まえた計画にするという意味では、ここにしっかり書くことが必要だろうと思います。

P73の地域特性ですが、1~4までありますが、やはり4の多様な人材というところがつくば市の絶対的かつ圧倒的な強みだと思っています。順番的に(4)でいいのかというのはありますが、変えないにしてもしっかり記述していただくと共に、多様な人材がいるというだけではポテンシャルでも強みでもないで、そういったポテンシャルを、活用という言葉がいいかはわかりませんが、使っていけるということが強みになっているということも記載されたいかと思っています。

それからP75に4つの柱を挙げていただいていますけれども、これは一点目の指摘と近いのですが、科学技術都市というところがあります。ここでは科学技術の進歩というのが生活、あるいは地球環境に恩恵と書いてありますけど、逆に産業についてあまり書かれていないなと思いました。実はよく下の方を見ると審議会委員の先生方は産業ということをしっかり言われているにも関わらず、上のところの柱でそういったことが書かれておらず、単純にちょっと欠落しているような印象がありまして、やはりもう少し産業に目を向けた方が良いと思います。

会長：はい、それでは事務局お願いします。

政策イノベーション部長：例えばですが、4番目の科学技術都市の最後のところに、例えば今、人類共通の課題の解決と言うことになっていますが、そこに例えば産業的な要素を入れて、人類共通の課題の解決に貢献するとともに、産業に強化するとか、例えばですが、そういったニュアンスを入れるというのも1

つあるかなと思いますので、御指摘を踏まえて考えていきたいと思います。

事務局：P72 のところで産業構造の変化という項目を入れた方がいいのではないかという御意見です。今までの御議論でよく検討頂いているものになりますので、追加について検討したいと思います。P73 の順番ですとか、記載内容につきましてはまだ決まっているものではございませんので、頂いた意見を受けまして基本は大事なものをから順番に並べるかと思っておりますので、その順番も再度議論したいと思います。

会長：私も多様な人材を活用というのではなくて、それが自然に入ってこれる、先ほど委員も言っていましたが、当事者意識を持って市民の方も入り、体制を見直しながらだと思っております。既存の枠組みを前提としてはできません。そこまで変えていくのが大事だと思っておりますので、わたしも見直していただきたいと思っております。はい、他いかがでしょうか。

委員：構造についてお伺いしたいのですが、今回地域の強み・弱み、第3章の対応を踏まえて第4章という形になると思っていて、第4章のP74、75で書いているのですが、こういう強みとこういう弱みがあるからこういう強みを活かしてこういった理念を立ち上げてこういう弱みに対処をしていくということが見えづらいので、そのあたりをどう記述されていくのかをお伺いしたいと思います。

会長：事務局お願いします。

事務局：こちらの強み弱みは、御指摘いただいたまちづくりの理念、この後御説明する2030年の未来像等を考える上での前提条件という形で今回整理を行っております。P74、75のように、関係するものについて記載を行っておりますが、強み・弱みとの関連が見えづらいという御指摘ですので、こちらを見えるような形で再度修正を行い、どのようなところから出てきたものかわかるように再度整理を行いたいと思います。

会長：その他いかがでしょうか。

委員：だんだんと構成ができあがりつつあるのだと思いますが、実際文章を作りながら行ったり来たりしていかないとと思っております。先ほど主語は何なのかという、それこそ第1章に書かれるべきことではあります。実際やってみてもう一回第1章を直すというやり取りが必要になるかと思っております。もう一つ、全体の構成で私もこういう資料の中でイメージがまだまだはつきりしないところですが、前回との対照表がP69にでてきますが、今回は特に第4章、これから御提案いただくわけですが、それと第5章・第6章、いわゆるバックキャスト型、

この辺のことはどこで書かれることになるという、まだ粗々でこれから詰めると思いますが、全体の構成が前回とどういう関係ということを理解する上でも、特に今回は 2030 年の未来像の中でということなのかと思いますが、それについてお考えがありましたら御紹介をお願いします。

会長：事務局をお願いします。

事務局：今回バックキャストの考え方を取り入れたことが、未来構想の大きな一つの特徴ですので、第 1 章で基本的な考え方というものについては記載したいと思っています。こちらも一度案を作ってお見せして、再度御指摘をいただいて直すという形で、行ったり来たりしながらという形になると思いますが、進めていきたいと思っています。

会長：はい、よろしいでしょうか。

委員：第 1 章は総論全体の構成の固定というか、具体的に書かれるのは第 5 章ということでしょうか。

事務局：未来像を示すのは第 5 章でお示しするという形になります。

会長：今書き方としては仮の状況です。バックキャストとか思想は最初に入れてもらうなど作り方だと思います。よろしいですか。その他いかがでしょうか。

委員：すごく基本的なところで、私の単なる勘違いかもしれませんが、P69 の後ろの方で、第 5 章に 2030 年の未来像とありますが、この会議はもう少し先の未来像を描いているのか認識しており、未来といっても随分近い未来だなと思いつつ今伺っていました。何となく私の中で 30 年後くらいの未来のことを構想しながらバックキャストではないですがそこに向けて何が必要なのかということイメージしていくのかなと考えていたのですが、それは勘違いでしたか。

事務局：今回今までの未来構想の良いところは残しつつ、わかりづらいところは変えるというコンセプトでやっております、元々は 21 世紀半ばという形になりますので、全体としてまちづくりの理念等においては 21 世紀半ばまでをまちづくりの方向性として示していきたいと考えていますが、ただ、未来像としては一旦マイルストーンという形で 2030 年にこういった未来を実現させたいということで、中間地点ではないですが、一旦イメージしやすい SDGs のゴールである 2030 年の未来像という形でお示しをし、また 2030 年が近づいてきたら次は 2040 年のマイルストーン、最終的には 2050 年頃という形で今後改定を行っていく形になるかと考えております。30 年後と 2030 年という、地点と

しては2つあるという形になります。

会長：よろしいですか。御指摘通り多少分かりづらかったので、ここで確認できたのでよかったと思います。

市長：さっき「産業」という言葉が良く出てきましたし、このメモを見ると「産業」という言葉がたくさん出てきますが、「産業」という言葉を皆さんがどのように捉えられているかということの認識合わせをした方がいいと思います。どういうレベルのものを産業と呼んでいるのかということを決めておいた方が書き込んでいくにもいいと思います。例えば産業というのは基本的には生産していく活動だと思いますが、農林水産業も産業ですし工業も。例えばロボット産業、モビリティ産業という言い方をしたりしますが、そういう部分での新しい産業を皆さんが思っているのか、あるいは、先日イスラエル大使館の人と話をしていたら、イスラエルの最大の産業は何かというと、スタートアップだと言うのです。スタートアップこそが最大の産業なのだという言い方をしていました。それはつまりそこを基軸にしてあらゆるサービスが生まれ、そこで財も生まれていくという流れを作っているからという意味です。何を産業と呼ぶかというのを考えておかないと、我々が目指す産業がどこなのだろうということになると思います。それはこの委員さん方での、正解は何もないですが、ぜひ、例えば委員がどういう産業をイメージされているかというのを伺えるといいなと思いました。

委員：御質問なので私の考え方を述べたいと思います。その前に2030年と2050年は随分違うと思うので、マイルストーンとしての2030年という見方は良いと思います。それから書いてある中身で市民からのニーズ、健康でいたい、長生きをしたい、便利であったり共存できたりというのは当然なのでそれはほとんど未来構想ではないような気がします。未来構想に置くものではなく、ファンダメンタルに我々が目指すものは間違いなくそれなので、未来構想というのは今市長から御質問があったようなことが未来構想ではないかと思います。とにかく人々が幸せに暮らせるというのが、今も明日も未来も30年後も50年後も同じだと思います。

未来構想で話すべきは、例えば産業の話の前にさせていただきたいのですが、2050年を考えたら、もう車がないと言われていています。道路がなくなっていると思います。そうやって考えた時に今の延長線上で考えても決して未来は語れません。そんな時代です。トヨタが車づくりから脱却すると言っているわけですし、ガソリン車は2025年でなくなります。その後はエアカーしかないのです。根本的にまちづくりが変わってしまうはずなのでそんな簡単なことではないと思います。常日頃幸せを追求するに当たり、ここに書いてある通りなの

で、それにやっていかれていいのですが、未来を考えた時に相当の社会構造変革を念頭に入れないと間違った方向へ向かってしまいます。

そこで産業なのですが、今の産業というのは労働集約型ではないので、一ヶ所に工場ができるということはもうないと思います。農業にしても集中して人が集まってやることはなく、全部機械がやるので、労働者が集まるという形はほとんど旧モデルだと思います。ビルディングそのものを今とび職の方がビルの上に乗っかっているという写真がほとんどでないのは機械がほとんどやっているからです。機械が自立で伸ばしていつているので、もう今更とび職はいらないわけです。だけど、その建築の鉄骨を動かすソフトウェアの開発者は必要となります。これがないと人口減少の後に誰も建物を建てられなくなってしまいます。鉄も輸入する必要はこの国にはありません。全部廃材だけで鉄は回収できて、日本は鉄鋼では輸入する必要がない国になっていて、今必要なのはいかに鉄を分別して精製するかなんです。そこも人はもういらないうところですよ。これからはそういうシステムを作れるかどうかにかかっています。

ですからこのまちにとっての未来を考えた時に労働集約型になることは絶対ないので、それは念頭に置きません。そうすると知識集約型は普通の街並みに、新しいアイデアを実現していく人たちの集団が暮らすというまちづくりになります。例えばケンブリッジやオックスフォードもそうなっていて、普通に食料品店や本屋さんの合間にベンチャーや大手がそれぞれの、5～6人の企業や20人くらいの企業があったとしても、一つずつが今みたいなビルディングのひとつの空間を使っています。農業についてはなるべく人の手を借りないでおじいちゃんおばあちゃんに御負担をかけないけれども、利益はおじいちゃんおばあちゃんにいくように、そういうことを考えている人達が大挙しているわけですよ。そういうストリートに変わりつつあり、シリコンバレーや今のイスラエルも有名ですが、実は有りとあらゆるところにそういう構成が生まれています。皆さんの幸せを追求するために、アイデアを実現するための設計図をかける人がやたらとたくさんいないといけません。それは普通の市民がやれるレベルなのです。意見を聞いてテクノロジーができる方は実社会にいかにして戻していくかということなので、これからの産業、特にここが科学技術都市だとすれば専門家の知識もあるし市民のニーズもあるわけですから、あとは労働者を集めないでいかに社会に実装するかということはこのまち全体を使ってやっていく産業、これが産業なのだと思います。大規模な工場が建つともうありえません。

それから今言ったように農業などもなるべくそういうアイデアを持った人達が農業の現場で働く人達に優しい仕組みを作るといふ、その工夫と実装が

必要です。産業という言葉は難しいです。産業というと、煙突工場のイメージが湧きますが、そういうものではありません。もう少しインテリジェンスに富み、市民と一体化した市民のニーズがそのままなるべく簡単なアイデアで実装でき、研究者や研究者じゃない周りの方々も、あるいは法律家もつい行きたくなるようなまちづくりとなるのではないのでしょうか。例えばエアカーが飛べば法律が変わるので、エアカーを開発したらすぐ東京から法律家が来て一緒に会社を作っているという、これが産業です。これによって法律家がそこでエアカーにぶつかった場合は道路がないので、道路交通法が使えないので、新しいシステムとして新しい法律を考えましょう。これはどこにいてもできるのですが、ここは市長も有識者の人たちも実験をして未来をつくるまちと謳っているわけですから、大変素晴らしく、実行力が期待できるまちだと思います。若い方も定着するだろうし行き来もします。やがて市民の方々もそういうものに馴染んでいくということだと思います。それには委員もおっしゃっていましたが、顔は重要で、例えば鹿島だと、アントラーズというチーム一個で世界のまちになっていて、世界中知らない人はいません。やっぱりスポーツをやろうというわけではありませんが、一つの顔があるからだと思います。同じように我々もつくばの顔というものをそういう形で市民と、産業という夢を実現するための企業が一体化していくというのは非常にストーリーだと思っております。

会長：その他、いかがでしょうか。

委員：P73の地域特性のところ、地域の強み、改定案の未来構想の項目ですが、現行を比較すると（1）は「自然環境に恵まれたまち」ということで改定案もそのままつながっています。（2）は「科学のまち」から「研究学園都市」という言葉に変わっていますが、この言葉でいいのかというのがあります。（3）の「教育日本一のまち」ということで今まで打ち出してきて、教育という言葉が三行の項目に一項目も入っていないのです。これまで質の高い教育をつくばが進めてきた地域の強みであり特性であるので、「日本一」という言葉は使わないにしても教育の質が高くしていくという項目は入れてほしいと、これは地域の特性として抜けてはならないのではないのかと言いたいということだけです。

会長：事務局から御意見をお願いします。

事務局：これは御指摘いただきまして、載せるとしたらどのような形で載せたらいいのか、教育長や局の方々とお話しながら検討したいと思います。

会長：時間が押していますので、委員からもお話がありましたが、未来について若手職員からプレゼンテーションがありますのでそちらの方に移らせていた

だければと思います。議題「(3) 未来像提案の為のプレゼンテーションについて」事務局から御説明をお願いします。

【(3) 未来像提案の為のプレゼンテーションについて(1-1~1-4について)】

事務局：(プレゼンテーションの概要を説明)

会長：続いて未来像のプレゼンテーションに移ります。ワーキングチームから発表をお願いします。

ワーキングチーム(以下、WT)(各員)：(未来像について順番に発表。)

会長：4番で1回区切らせていただきます。御質問いただければと思います。よろしくをお願いします。

委員：「1-2 子どもも親も楽しく過ごすまち」とありますが、発表の方では「楽しく育つまち」とおっしゃっていて、そうだとしたらすごくいいなと。「過ごす」ではなく「育つ」だといいなと思いました。どちらだったのかということと、ここで遊びということが非常に謳われているのですが、遊び場をたくさん用意する、遊びって用意したり整備されていたりするものではないと私は考えています。自由に遊ぶことについてもう少し深めていただけるといいなと考えました。

会長：もし何か御意見があれば。

発表者：1点目の「育つ」なのか「過ごす」なのかという点に関しては、1-1で育つというワードを使っているところに合わせて我々は「育つ」ということで書いていました。すみません、資料と齟齬があり、「育つ」ということで認識いただければと思います。

会長：それでは他いかがでしょうか。はい、お願いします。

委員：P71のグローバルの2番、1-4番、この中で大学研究所、企業等が多い中で、その中で外国人がかなり来ているということでございます。そういう外国人がいる中で、どういうことをやっていけるか、そういうものも未来志向として考えていかないといけないと思います。どういう風なことをしてどうい

ところに集めるとか、オーバーかもしれないですが、テレビでよく映る、アメリカのソフトなどをみると、どこがアメリカ人でどの人がどうだか分からなくなると思います。つくば市あたりもTXがあるので、そういう観点でかなり入ってくると思います。そういう中での施策も必要ではなかろうかと思います。

会長：他の人はいかがでしょうか。

発表者：外国人の活躍についてですが、今市内にいらっしゃる外国の方々には外国人コミュニティの中で暮らしている方が多く、その中で支え合いをして生活をしていらっしゃいます。しかしその方達の意見をもっとオープンに拾えるようにすることで、まちづくりとして欠けている要素を、外国人の方から見学するところがあると思うので、そういったところを広く拾っていきけるよう、声が広がるようにしていければいいと思います。

会長：他にいかがでしょうか。

委員：ありがとうございました。1-2なのか1-3なのかわからないところですが、未来像のところが0歳の市民から見ていると思いますが、できればマイナス10ヶ月くらいの市民から視野に入れてほしいというのがあります。つくば市内で赤ちゃんを産むのは実は結構大変なので、その辺も意識していただけるとなるといい未来像になるかと思います。

会長：よろしければお願いします。

発表者：「1-3 誰一人取り残さない福祉のまち」という観点におきましては、確かにこのところで子育て世代の表現が抜けておりましたが、その観点も考えていきたいと思っています。

会長：それでは時間が厳しいので先に進めさせていただければと思います。

【(3) 未来像提案の為にプレゼンテーションについて(1-5~1-8について)】

WT(各員)：(未来像について順番に発表。)

会長：それでは質問を受けたいと思います。

委員：まず「1-6 災害に強く、自主防災力が生きるまち」についてですが、確かに自助・共助・公助の連携を考えていった時に最初に自助ということが大

事だといわれていますし、ここが市民レベルでできることで、今、発災後にどうするかという対応がもちろん大事だと思いますが、発災する前にどう予防していくのかということに国も含め非常に重点的に考えていっている中、リスクコミュニケーションが注目されています。市民や地域だけではなくそこに含まれる企業や行政、様々なステークホルダーがともにリスクについて共有していくことによって、「ではこうなったらどうするのか」ということをこれから考えていかなければならないということが言われており、ここでは所謂地域コミュニティということだけで非常に強く特化しているところがあるのですが、こういったリスクを知っていくとか、それに対しどう対処していくのかということはどう考えていらっしゃいますか。

発表者：検討している中で、つくば市には研究所が多数ありますので、子どもたちの教育、小さいころから研究所で自然災害を学ぶ機会を提供して事前災害の予防に努めていければ、そういう機会を設けられればいいのかなと思っています。

委員：それは例えば50年後30年後という長いスパンでいえば教育というのが大事だと思いますが、もし2030年に実現する未来として考えるならば、やはりいつ起こるか分からない災害になんとか対処していこうという未来を想定するならば、まずは地域ごともしくは市内で様々な人達を巻き込んだ土台を作っていくという視点も必要かなと思ったので御意見申し上げます。

あともう一つ。「1-7 身近な自然を守り、楽しみ、持続させていくまち」についても申し上げたいのですが、もちろん自然を楽しんで皆で意識していくというのは理解できるころなのですが、これをどこまで実現を可能とする未来を思い描かれているのかというところで、やはり自然というのはただ守ろうとか、少し手入れをしたからといって守れるものでもないと思っており、例えば2030年と近いところで見ると時には、この自然を守るためには都市計画や条例についてもきちんと着手していかないと、市民や来訪者が望むような自然環境というのは具体的には守れないのかと考えます。こういった点というのは何か検討やお話をされたのかお伺いしたいと思います。

発表者：そういった観点からも班の中の話し合いや庁内の話し合いでもそういった話は出ていまして、今回作った未来像に関しましては、どちらかという先程述べたように市民の方たちに身近に感じてもらう、自然環境を保全することの大切さみたいなものをより分かりやすく伝えるためにこういった文言になっています。そういった観点も考えているんですが、この文章からは感じられないと思うので、盛り込むように検討したいと思います。

委員：あと、先ほど皆さんがおっしゃっていた 2030 年なのか 30 年後なのか、未来構想をどのあたりを想定して持っていくのかがまだ私も理解ができていないところがありましたので、また御指摘いただければと思います。

会長：その他いかがでしょうか。

委員：プレゼンテーションで理想の状況というのはものすごくわかりましたし大事なことだと思いますが、未来構想を作る時はその理想を実現するためにもっと具体的に何をするかというの必要な視点ではないかと考えます。先ほど市長がおっしゃった産業は何かという。例えばつくば市は何をメインの産業として、要するにこういう状況を作るためにはやはり原資が必要なわけですし、つくば市には税金が入ってこないといけないわけです。それから委員もおっしゃっていましたが、2030 年代にはもうガソリン車はなくなります。アメリカはもうガソリン車はなくなると発表しているわけで、たぶん日本もつくば市は科学のまちですから先端をいくと思います。そうすると今市民の方たちが商店の賑わいとおっしゃっているけれども、生活のパターンが商店で買い物をするとかそういう時代ではなくなるかもしれないわけで、もう少し具体的にその状況を想定して何をするかという視点が入ると素晴らしいかなと思います。これだけ研究学園都市で色々あるわけですから誰も歩いていないかもしれないし、先ほど道路はいらぬかもしれないとかいう話もございました。今朝テレビを見ていたら、通信の高校生が 18 万もいるとおっしゃっていました。つまり学校で勉強をするよりももっと違う多様化した教育を求めているということ言っていました。こういう先端に行くつくば市はそういうことも視野に入れ、「ここでこそ」というのもあるといいなと思っておりますので、勝手なことを申し上げますが。

政策イノベーション部長：御指摘の通り理想像だけで終わってしまっただけでは意味がないと思っています。そういった意味では具体的にこれをどう実現していくかというアプローチももちろん考えていきたいと思っております。そちらの方は戦略プランというものを別途策定し、この審議会でも議論していただくのですが、今後そういう具体的な方策についても議論を深めていきたいと思っております。まず今の段階では理想的な姿というものを定めた上でそこにどうアプローチしていくかというところを、今御指摘いただいたように今の状況だけではなく未来の姿も想像しながらアプローチを考えていくということを今後進めていきたいと思っております。

会長：できれば今の発表に関しても御意見いただければと思います。御意見どうでしょうか。

委員：「1－5 人生100年！生涯現役な健康長寿のまち」というところですが、言葉尻を捉えるようですが、生涯現役の部分の話があまりなかったと思っています。100年まで生きるという観点からいうと、運動機能の診断や福祉・医療、健康管理も大事だと思いますが、その御高齢の方に何をさせていただくのか、役割をどう持っていただくのかということも逆に考えると医療・福祉に係る負担を減らすということになっていると思いますので、そういった議論も改めてさせていただくとよろしいかなと思います。

会長：よろしければ発表者をお願いします。

発表者：1－5でどのように生涯現役で活躍していただけるかというところですが、1－3で福祉のことにもとれましたが、今後、福祉の要素でたくさんの方の市民ボランティアやそういった方々に参画していただきたいと考えている中で、1－5と1－3を結びつける考え方もあるのかと考えています。

会長：それでは時間もおしますので先に進めたいと思います。

【（3）未来像提案の為のプレゼンテーションについて（2－1～2－3について）】

WT（各員）：（未来像について順番に発表。）

会長：それでは御質問等をお願いします。

委員：先ほど勝手に2を読んでいたものですから、その意見を言ってしまったのですが、私がとても気になっているのは、つくば市はあまりにも大きいまちであり、人の移動が車に頼らないといけないところがあるのでモビリティに関して、車じゃなくても子どもでも誰でも移動できるようなことを考えていただくといいのではないかと思います。自転車に乗るか何かしないと、これだけの大きなまちを、何しろ研究学園都市はワンブロック行くのが大変で、諸外国ではもっとコンパクトになっているので、まち並みのことはこういう視点を入れていただくとありがたいと思っています。

会長：一度回答をお願いします。

発表者：交通の便は非常に重要だと思っており、実は別に特出しており、3－2の方に入れております。

会長：その他いかがでしょうか。

委員：色々御議論いただいている中身について異論はないところですが、項節でいうと1-1から1-8、2-1から2-3ですが、どちらかというところの1-6と1-7は2の方へ来た方が据わりがいいというか目的とか誰がやるということが分かりやすいと思えました。逆に言うと2-2はむしろ1の方に入っていた方が、誰がやるのかわかりやすいと思います。逆にそういう風にカテゴリを整理していった方が、問題がよく見えてくるし、主体が誰なのかということも分かります。2の魅力ある地域ということですが、これは自然があつたりインフラがあつたりこういう周りが必要です。それ自身もすごく魅力的なまちですが、1の方は人の問題かなと。より生き活きと健康で生きるという人の問題ですから、多様性も含めてむしろそういう指定にすると分かりやすいかと思えます。そういう中で色々御議論いただく中でやはり具体的に何をやるかということまでいかないとしても、誰が主体なのか、何が相手なのかを文章の中で整理をしていただくともう少し分かりやすいだろうなと思えます。ただこの議論を最後までお聞きしたいと思えますが、せつかく職員の皆さんがやられているので、最後に言いますが、今第何章の議論をやっているかわからないと後で聞いてみます。

会長：他はどうでしょうか。それでは先に進めたいと思います。

【(3) 未来像提案の為のプレゼンテーションについて(3-1~3-3について)】

WT (各員) : (未来像について順番に発表。)

会長：それでは御質問ございましたらお願いします。

委員：3の項目について、まさに3点ともこれから新機軸ということで陣取りしますから、目立つ高度な技術の進化ということで感銘を受けているところではありますが、私の考えですが、良くテレビ等で報道されていますように、移動手段では、自動運転の車ができ、最初は二段階で発展し、最初はゴルフのカートみたいにハンドルを持って自動で運転します。そのあとは食事をしながら、例えば市役所に朝ごはんを食べながら来るとか、大阪へ勉強しながら寝ながら行くとか、そういったものはかなり近く実現すると思えます。そういう観点で交通システムの問題と俗に言うインターネットもそうですが、ドローンを利用した空飛ぶ車も近く実現するのではないかと考えています。2030年はどうかわかりませんが、そういった3番で色々高度な世界を牽引するというところで勉強

していただき、そういったものもこれから視野に入れていただくといいなと感じた次第です。

会長：いかがでしょうか。お願いします。

発表者：小型モビリティ以外にも車だと交通の面が色々変わってくると思いますが、そちらの方も盛り込んだ上で内容の検討をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

委員：この3の項目はぜひもちろん書いていただきたいという内容になっているので、よろしいかと思います。ただ、先ほど市長から質問もありましたが、産業って何というようなこともありますし、新しい産業を作り出していくこと自体がこのつくばに一番外から期待されていることかもしれないわけです。それは必ずしもものづくりなのかわかりません。例えばつくばだったら健康に関すること、長寿に関すること、病院もありますし、そういうことに最先端の科学が活かされて、市民が最初に恩恵に浴することができるということ、色々あると思いますがその中の一つに書かれていると思います。これ自体大変結構だと思います。もう少し3-4、3-5があるかもしれないのでその辺もこれから検討いただけるといいと思います。

それから2点目が、3-2のところ、「科学のまち「筑波研究学園都市」」として書いてありますが、私個人的にはこのカギ括弧「筑波研究学園都市」というのは死語だと思っています。これは50年前の話で、今はひらがなの「つくば」だと思います。それは科学技術が社会に実装される実験都市という意味で研究所が集まっただけではでき得なかったことを、市民や行政が作り出していくのだと思います。それが支えていく、あるいはいろんなスタートアップだろうと思います。そこにこそ外から見た時につくばの魅力がある。研究学園都市や研究所があるから魅力を感じているわけではないのではないかと思うので、その辺も考えていただけるといいなと思います。

会長：お願いします。

発表者：つくば研究学園都市というのをもう少し表現等を工夫して検討してみようと思います。ありがとうございました。

委員：たぶん3ではなく、全体を通じてお聞きしての感想ですが、理念と未来像の交通整理はもう少し欲しかったというのが感想です。例えば「挑戦を寛容し創造を育むまち」、これは正に理念の考え方だと思います。だからこうなっていると、そのためにこういうまちにしていくというところが本来の未来像なのかなと。委員がおっしゃるようにストーリーが見えてくるような形ではない

となかなか未来像とは難しいのかなとイメージしていました。あとは「誰一人取り残さない福祉のまち」、これは最もなのですが、憲法で社会保障が規定されている以上、当然やっていただかないといけない話で、「地域で誰も取り残さない」とか、未来像と名乗るにはもう少し具体化したものを頂戴したかったというのが感想です。これは質問でどのワーキンググループの方でもいいので教えていただきたいのですが、行財政の話がどこにもでてこなかったなと思いました。皆さんの中での議論はどうだったのだろうかとも思いました。直接書き込めなくても例えば市民と行政のあり方の関係を未来像として書くという形でも何らかの方向があって然るべきかとイメージしていたのですが、いかがでしょうか。

会長：それでは回答をお願いします。

事務局：行財政に関しましては、未来像の中でも色々議論をしてもらったところではあるのですが、行財政、歳出を抑えて歳入を増やしていくというのはどれにも共通する項目だろうという整理になりまして、今回は地域特性などそういったところに全体の共通する項目という形で入れております。地域特性の弱み、地域インフラの更新・新設といったところで今後こういった歳出が増えていくということもありますので、そういった形で整理はしているのですが、今一度先ほどの御意見という形でいただいたまちづくりの理念等、また未来像の関係性という形で御意見をいただいておりますが、その辺も一旦整理し、関係性が見える形で標記をしたいと考えています。

政策イノベーション部長：今回ワーキングチームで出したのですが、これで全てカバーしているかというのは我々も疑問として持っているところです。先ほどから御指摘いただいている中で、新たに増やさないといけない部分もあるかもしれないと思っておりますし、今御指摘の部分も一枚必要になるかもしれないと考えているところなので、そこは改めて提案させていただきたいと思っております。あと、やはり未来像、御指摘の通り理念ではなくできる限り具体的な姿にしていくというのはその通りでございますが、なかなかバランスというのが非常に難しいところでして、今御指摘いただいたことを踏まえ、より具体的に書けるところを考えていきたいと思っております。

委員：行政機関が作る計画ですから実現可能性が問われるのは非常によく分かるところで、そこは安全にしたい気持ちは非常によく分かるのですが、各種計画や数値を入れないといけない計画はしっかりやっていただきたいと思っておりますが、未来構想が一番上位のものでしたらもう少しその辺の余地があってもいいのかなと思っておりますがいかがですか。

市長：若手ワーキングチームに話したのは枠に囚われないで皆さんのわくわくするビジョンを描いてくださいと話しました。行政的に整理をするのは事務局の仕事なので、あとでどうするこうするどういう作文にしていくかというのは、後でやる仕事です。確かにどうしても現実に即したものといくつかあると思いますが、大きな遠い未来については大きなビジョンを出していくことだと思っています。2030年というのはただ、逆に妙にリアリティのある数字というか、SDGsのゴールと同じゴールなのですが、ここまでこういう未来を実現しようということを我々SDGsに紐づけてやっていますので、そこではある程度の実現可能なものになっているというところで、これがもし仮に2050年とかであれば、もう少し大きな話にまとまったかなと思います。その中できっと若手ワーキングチームも悩んだのではないかと思います。

会長：その他、いかがですか。

委員：3の議論で次世代モビリティについて結構中心的に話があったのですが、今後も注目が集まる場所だと思います。3の議論と比べて1の健康長寿と比べると矛盾しているというか、近いところは歩いていける、歩いていこうというのと、つくばのまちの移動手段は早い方がいいというのと、すりあわせが自分でうまく合わなかったのも、この未来像を見た人が一本のものとしてコンセプトを見ていった時になるべく矛盾点がない方が人々にも浸透しやすいのかなと思いました。以上です。

会長：回答をお願いします。

発表者：小型モビリティなのですが、なかなか車がないと不便、車がないとどこにも行けないという方々がどこでも行けるよう、自動運転化された小型モビリティの活用や道路空間の整理ということで車を持たなくてもお年寄りの方でも移動がしやすい体制・整備というのをまずあるのかなと思います。もちろん健康とかそういった面から、それに頼らないということも必要だと思いますので、バランスを見ながらすり合わせていければと思います。御意見ありがとうございました。

会長：その他いかがでしょうか。

委員：3-1のところですが、デジタルシティというところで市民がサービスを楽しむだけでなく政策立案にも参画できるような、委員の意見交換会の時にオープンデータで市民が政策を作っていくような話がありとてもいいなと思ったので、そういう市民が作る側に回るといふ目線も入れてほしいと思いました。

会長：どうでしょうか。

発表者：現在オープンデータについては12月にオープンデータのサイトを公開しており、現在52件ほど公開されている状況です。また市民が実際にオープンデータを活用し、新たな取り組みをするという活動については、Hack My Tsukuba というのを筑波大学と共同で実施しており、それも引き続き来年度も行えればと検討中なので、こういった取り組みが広がっていけば、市民から新たな政策立案や地域課題の解決のための新たな提案が生まれてくるのではないかと考えていますので今後もこういったことを続けていければと思います。この中にはちゃんと書いていないところですが、職員がデータを活用する部分もありますし、当然オープンデータとして公開をして市民が活用して直接行政に返していただくというか、市の中で使っていただくという提案の仕方もあり、両面から進めていければと考えています。

会長：その他いかがでしょうか。

委員：若手の市役所の方が日頃の業務と離れて将来のつくば市の未来を考えていただき大変いい機会だったと思います。発表の方も大変関心良く聞かせていただきました。一方、審議会の進め方なのですが、会長は大変時間の管理など御苦労されている中なのですが、委員の一人一人の意見を事務局の方が「これは訂正する方向で調整します」とか、「これはこのままで」というのは少しおかしくて、我々審議会のメンバーが一人一人の委員さんの意見を議論していただいて会としてやってほしいと思いました。一人一人の意見の方が個別の事務局の方が入れる入れないというのは、議論の仕方としておかしな話だと思います。我々は案を求められている立場で、一人一人の意見を会としてまとめたいただきながら、その場で事務局からの御回答をいただかなくてもいいので、持ち帰っていただいてからでも結構です。そういった議論があったことを踏まえ、次回こう直した・こう修正したというかたちで進めていただいた方がいいかと。我々も結局答申案を出した後、最終的に構想ができて我々が委員として答申したという責任を持たないといけないので、議論をした上で事務局に投げさせていただくという進め方でいっていただけるとありがたいと思います。

会長：今の進め方に関して考えさせていただければと思います。理想はそうなのですが、このメンバーでできるかどうか。議論は発散しても構いません。ただやはりある程度最終案に収束させないといけないものですから、そこは責任がありますので進め方に関しては少し考えさせていただきます。

それでは発表なのですが、私個人的には楽しく聞かせていただきましたが、多少一つ意見があるとすればボトルネックというところで、何が問題かという

のを行政の方が一番知っているのですが、そこは聞きたかったなと思います。先ほど自動運転の話がありましたが、多分技術の問題はほとんどできてるのです。やはり社会の問題です。何がネックになっているのか、そこを明らかにしてほしいと思っています。行政の方の方が理解されていますので、なかなか市長の前で言いにくいかもしれません。ぜひそういう意見があればもう少しよかったなと思った次第です。最後に発表した皆さんに拍手をいただければと思います。報告事項の(1)(2)(3)を事務局から簡潔に御説明いただいて最終的に閉会まで持っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

2 報告

【報告(1)～(3)について】

事務局：【報告(1)】(報告1、を用いて報告事項の概要を説明。)

(2) 市民、中・高・大学生アンケート及び関係人口アンケートの実施結果報告

事務局：【報告(2)】(報告2-1、報告2-2を用いて報告事項の概要を説明。)

(3) 個別計画の分類と将来のリスク

事務局：【報告(3)】(報告3-1、報告3-2を用いて報告事項の概要を説明。)

会長：多少時間が押していますが、御質問あれば。

委員：今日は市長さんがおいでになりました。やはりトップは営業マンだと私は思っています。プロフェッショナルがつくばに住んでいるという、例えば神の手といわれるような技術を持った医者や人間にとって命を左右します。こういう人は大事なのでそういう人がもっと解放されて、1,000万、500万の手術を求めて、年収が高い人達がつくば市に集まっているという風になったらかなり税収に直結し、世界の金持ちがくると思います。それをどう考えてどう行動し、そういう人達に住んでもらうかは、市長さんの動きによると思います。未来像

としてのつくばは他に例を見ないような市を作り上げてもらったら、今までの基礎的なものの配慮がかなり活かされると期待します。ぜひ税金につながるようなことをお願いしたい。本社移転に50億の補助金を県が出すと銘打ったので、そういう風なもの活用する、あるいは、ZOZOTOWNの前澤さんがつくばにきたということも宇宙にかなり関心があることなのかもしれないと思っています。工業団地の中に入ってもらってよかったかなと思っているのは、高速道路に直結できるようなことで変化しましたので、そういうこともいち早くやってつくば市の将来像を作り上げていただくということに対しては大きな期待をしていますのでよろしくお願いします。

市長：おっしゃるとおりでして、富裕層をどう呼び込むかについては議論としてはまた別のものとしてありますが、余所と同じことをしてもしょうがないというのは確かにその通りですし、国が2.6兆円の下駄を履かせてくれているわけですから、やらないといけないと思います。さっきの産業の話からも含め、市としての大きな事項をどこに置くかということを考えれば、やはり一言でいえば世界にイノベーションを起こしてそれが産業として回って行ってそこに人も集めてくるようなそういう流れをどう作れるかだと思います。私が言っている世界の明日が見えるまちに直結している話なのですが、委員の話もイメージとしてズレがなかったのですが、もっと際立たせる必要があるだろうなと思いました。今日の若手のビジョンもすごく良いもので色んな議論をしてくれましたし、こういう要素を入れながら一言でいうとつくばは何をするのかという部分で、やはりありとあらゆる分野に科学技術も含めたアプローチが入って、そこからお金も生み出していけるような流れも作って行って始めて持続可能な形だと思っています。そういう意味では、私が頭の中で考えていたのは、まち自体が産業になるような、社会実装が産業になるようなあるいは新しい挑戦自体が循環を生み出していくようなところまで高めていくことがつくばの使命だったのかと感じていますので、これからまた皆さんの御意見を伺いながら絵を描いていければと思っています。ありがとうございました。

会長：もう約束の時間が過ぎました。皆さん一言と思ったのですが、今日は時間が厳しいので終わりにしたいと思います。今後のスケジュールについて、事務局から御説明をお願いします。

【その他】

事務局：今後のスケジュールについて御説明します。以前お送りした日程調整で3月11日と13日についてお伺いしておりましたが、出席可能な方の多かった

3月13日(水)に開催させていただきたいと考えております。時間につきましては14時30分からとさせていただきたいと思っております。以前15時からとお伺いしておりましたが、大変申し訳ありません、都合により15時30分から2時間程度という形で開催をさせていただきたいと思っております。また開催が近づきましたら改めて正式な開催通知をお送りさせていただきます。今年度につきましては、3月に行い、また来年度は続きがございますので、一旦3月の時点で素案を見てください意見をいただきこれについてはまた来年度も戦略プランを作っていく上でまた出戻ったりしながらという形で考えております。次回は2019年度におきましては5月頃の開催を予定しております。これにつきましては委員の交代等もあるかと思っておりますので、改めて日程については照会をさせていただきたいと思っております。以上です。

会長：それでは事務局の方から閉めていただきたいと思います。

4 閉会

事務局：それでは委員の皆様長時間に渡り御議論いただきまして、誠にありがとうございました。以上を持ちまして第4回つくば市未来構想等審議会を閉会といたします。ありがとうございました。

閉会（午後4時20分終了）